

“CER International workshop for New Frontier of Microbial Ecology”, chaired by Y. Takao (Fukui Pref. Univ.) & S. Nakano (Kyoto Univ.)

京都大学生態学研究センターでは、共同利用・共同研究拠点活動の一環として、以下の趣旨・内容の公開ワークショップを開催します。参加・発表希望の方は、下記の要領に従ってお申し込みください。なお、発表・聴講のみに関わらず、参加費は無料です（旅費・宿泊費等は、各自ご準備ください）。

趣旨：

近年の分子生物学的手法の発達は、水圏微生物学においても様々な発見をもたらし、1980年代に提唱された有機物分解を起点とする食物連鎖「微生物ループ仮説」は、今日では「微生物ループ理論」として、エネルギー循環の主要な経路として認識されるまでになった。現在、この微生物ループ理論を元に様々な環境における微生物間相互作用に関する研究が世界中で活発に行われている。一方、近年では陸圏と水圏の物質移動の重要性が指摘されるなど、よりグローバルな視点の研究も数多くなされている。これらの動きは、従来の微生物生態学の範疇を越え、環境微生物学という新たなカテゴリーの台頭も含めて、自然界に生息するさまざまな微生物を扱う多様で活性の高い研究者集団を産み出している。

若手研究者や大学院生は、時代の最先端に常に触れつつ日々研究を続けており、彼らの研究成果は次の新しい時代を考える材料となる。本研究集会では、様々なフィールドで多様な微生物を対象として生態学を研究している若手研究者・学生に、その最新の研究成果を英語で発表・議論する場を提供し、水圏微生物生態学において第一線で活躍している Fereidoun Rassoulzadegan 博士、Geoffrey Codd 博士を始めとする微生物生態学のプロの研究者との討論を通じて、微生物生態学・環境微生物学の重要テーマや今後着目すべき現象や理論の整理を行う。

日時：2010年12月5日（日曜日）、午前9時30分より

場所：京都大学生態学研究センター（以下のURLをご覧ください）

<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/ecology/access/index.html>

プログラム :

9:35 **Opening remarks (Takao and Nakano)**

9:40 **Prof. Dr. F. Rassoulzadegan**

Aquatic microbes attached to organic particles - "*raison d'être*"

10:40 **Prof. Dr. G. Codd**

Cyanotoxins: from research to risk management

11:40 ~ 13:00 **Lunch break**

13:00 **M. Inagaki, Y. Murakami, Y. Takao**

ECOLOGICAL AND PHYSIOLOGICAL STUDIES ON MARINE EUKARYOTIC DECOMPOSER, THRAUSTOCHYTRIDS, IN OBAMA BAY, JAPAN SEA

M. Ueda, D. Honda

STUDIES ON SEASONAL DYNAMICS OF FUNGOID PROTISTS, THRAUSTOCHYTRIDS, FOR REVEALING THEIR ECOLOGICAL ROLE IN COASTAL WATER

Y. Mori, T. Okamura, T. Kataoka, R. Kondo

POPULATION DYNAMICS OF PHOTOTROPHIC SULFUR BACTERIA IN LAKE SUIGETSU, A MEROMICTIC LAKE IN FUKUI, JAPAN

M. Ushio

FUNCTUINAL DIVERSITY OF MICROBIAL COMMUNITY WEAKENS PLANT LITTER CONTROLS ON SOIL DECOMPOSITION PROCESS

15:00 ~ 15:30 **Coffee break**

15:30 **K. Ohbayashi, Y. Hodoki, Y. Kobayashi, N. Okuda and S. Nakano**

GENOTYPIC DIVERSITY OF THE CYANOBACTERIA MICROCYSTIS IN WEST PART OF JAPAN USING 16S to 23S INTERNAL TRANSCRIBED SPACER REGION

Y. Hodoki, Y. Kobayashi, K. Ohbayashi, N. Okuda and S. Nakano

GENOTYPIC DIVERSITY OF ARTIFICIAL MICROCYSTIS BLOOM OCCURRED IN EXPERIMENTAL PONDS

T. Homma, T. Kataoka, S. Nakano and Ryuji Kondo

ASSESSING THE BEHAVIOUR OF INTRA-SPECIFIC VARIATIONS IN A
CYANOBACTERIAL SPECIES *MICROCYSTIS AERUGINOSA*

17:00 Closing remarks (Takao and Nakano)

18:00 ~ Round table session

発表について：

1. 本ワークショップでは、大学院生、ポスドク等の若手研究者に、英語での口頭発表をお願いします。発表ご希望の方は、以下の要領に従い、奮ってご応募ください。なお、応募多数の場合は、ワークショップ企画者が採否を決めさせていただきます。もし採択に漏れてしまった場合は、どうぞご容赦ください。
2. 発表はせず、聴講のみのご参加も、大歓迎です。
3. 発表者は、英語を母国語としない方を優先させていただきます。
4. ワークショップ企画者は、海水および淡水におけるウィルス、細菌、微細藻類、原生動物などの微生物の生態学に関する発表を採用したいと考えています。
5. 発表時間は15分、質疑応答は5分、一人の講演者当り合計20分が持ち時間です。
6. 旅費・宿泊費等、今回のワークショップ参加・発表に関する経費については、発表者ご自身でご準備ください。
7. 発表希望者は、10月26日午後5時までに、高尾 祥文 (takyoshi@fpu.ac.jp) 宛に、講演者（共著者）、講演タイトル、英文の講演要旨をお送りください。講演要旨は、次ページの要領で250ワード以内でご執筆いただき、ワードファイルで高尾 祥文 (takyoshi@fpu.ac.jp) 宛にお送りください。
8. 優秀な口頭発表者には、「Best presentation award」を表彰します。
9. なお、京大生態研周辺は、レストラン・定食屋・コンビニはおろか、自動販売機もありません。お昼ご飯やお飲み物は、ご自分で持ってきてください。天気が良ければ、野外でお食べくださると、素晴らしい自然景観を楽しみながらお食事いただけます。
10. なお、せっかく生態研で食事をされるので、企画者としてはこの機会を重要と考え、2名の外国人研究者との昼食会も企画します。ご希望により、この機会に、Prof. Godd、Prof. Rassoulzadegan とランチオン・ディスカッションもお楽しみください。なお、希望者が多数の場合は、昼食会会場に入れられない場合もございますので、その際はどうぞご容赦ください。

以上、たくさんみなさまからのご参加・ご発表を、どうぞよろしくお願いいたします。

高尾、中野